

一般環境中（大気）の内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）等調査結果

環境局環境保全部環境規制課
電話 245-5193 内線 2741

1 調査目的

内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）は、微量の採取によっても人体等に影響を及ぼす可能性が指摘されていることから、科学的に未解明な部分が多いものの健康影響への未然防止の観点から対応することが必要であるため、市内における大気環境中の存在状況を把握するとともに、今後の基礎資料を得ること目的に調査を実施した。

2 調査日

平成20年11月20日～11月21日

3 調査方法

「内分泌攪乱化学物質測定方法マニュアル（大気）」により調査を実施した。

4 調査結果

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

	真砂公園	水道局	福正寺	市役所	宮野木自排	定量下限値
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	0.03
フタル酸ジ-n-ブチル	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.02
フタル酸ジエチル	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001
フタル酸ブチルベンジル	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001

5 調査結果の評価

すべての項目で定量下限値以下であった。

一般環境中（大気）の内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）等調査地点

